

# みかん栽培の礎を築いた 有田みかんシステム



日本農業遺産

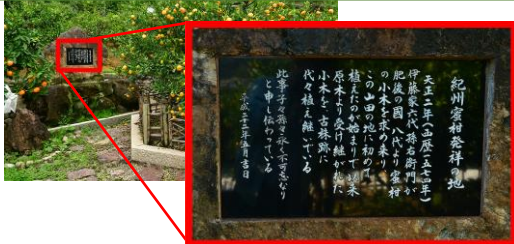
令和3年2月認定

## 和歌山県有田地域

「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」とは、みかん生産者による優良品種の探索と農家による苗木生産の組み合わせによる自立性の高い産地形成、多様な地勢・地質の組み合わせに応じた栽培技術の開発及び日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方」を起源とする多様な出荷組織の共存を核とした、持続的農業システムです。

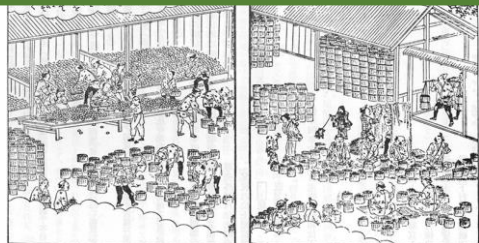


### 日本のみかん産業を牽引



室町時代より在来みかんを栽培。優良系統の選抜を重ねることで、江戸時代には「紀州みかん」を育成しています。

### 販売面での優位性を維持



江戸時代の選別・籠詰めの様子 出典:紀伊国名所図会

共同出荷組織「蜜柑方」(みかんがた)が組織され、時代の流れに応じ、その形態を進化させ続けてきました。

## 有田みかんシステム

日本で初めて、みかん栽培を生計の手段に発達させるとともに、持続可能な開発を可能にし、当地域を日本一のみかん産地に発展させた持続的農業システム

- みかん栽培の産業化**  
室町時代より自生みかんを栽培  
安土桃山時代には熊本県から小みかんを導入し、選抜を重ね「紀州みかん」を育成  
⇒日本のみかん産業を牽引
- 多様な品種の発見・栽培**  
高い観察力により、数多くの優良品種を発見  
みかん栽培との兼業により、農家ニーズに応える「2年生・土付き苗木」を生産  
⇒産地の自立性を向上
- 地勢・地質に応じた栽培**  
地勢・地質の組み合わせに応じた「長所を活かし、短所を克服する」栽培  
⇒産地全体で「有田みかん」産地を形成
- 販売面での優位性の維持**  
日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方」を組織、以降も時代に依りて、その形態を発展  
現在では、多様な出荷組織が共存  
⇒販売面での優位性の維持

**持続可能な「有田みかん」産地の発展**  
本システムにより、400年以上にわたりみかん栽培を継承  
多くの産地が栽培面積を減少させるなか、栽培面積を維持

減収の早さと昼夜の大きな寒暖差による色抜けの早さを活かした  
四万十帯・北阿蘇圏での極早生品種栽培

適度な水分保持力と「紅の濃さ」を生む微量要素の豊富さを活かした  
秩父帯・内陸部・傾斜地での早生品種栽培

山頂の雑木林：土壌の前縁・浸食を防止  
石垣の階段田：雨水の流速を減速  
⇒河川環境を維持

### 産地の自立性を向上



高い観察力により、数多くの優良品種を発見。また活着のよい「2年生・土付き苗木」を地域内で生産している。

### 地勢・地質に応じた栽培



本地域は地質で見ると三波川帯、秩父帯、四万十帯の3つに、地勢で見ると海岸部～内陸部、傾斜地～平坦地、有田川北岸～南岸に分けられます。これらの多様な地勢、地質の組み合わせに応じた品種選定、栽培を行うことで、産地全体として「有田みかん」ブランドを確立してきました。

# 日本農業遺産認定による効果

## 地域内外の理解醸成

地域の小学生を対象とした食農教育・地域学習の実施

- 本システムの魅力発信を盛り込んだ食農教育の実施： - (R2) → 2回/年 (R5)
- 本システムについての冊子の作成： - (R2) → 冊子作成 (R5)
- 小学校の「地域学習の場」における出前授業等の実施： - (R2) → 4回/年 (R5)

農業遺産認定を活かした販売促進活動

- 全国各地での販売促進イベント：  
- (R2) → 2回/年 (R5)
- 観光施設等での認定PR：  
- (R2) → 1回 (R5)
- 農業遺産シンボルマーク・リーフレット等の作成：  
- (R2) → 作成 (R4)



小学生を対象とした体験学習

## 6次産業化と販路開拓の促進

認定みかんや厳選出荷による「品質への信頼」と農業遺産認定を活かした「有田みかんの物語」による差別化の推進

- 「有田みかんデータベース」での農業遺産情報発信： - (R2) → 特設サイト開設 (R6)
- 認定みかんジュース：8品 (R2) → 18品 (R5)

産品商談会による6次産業実践者のマッチング  
機会の創出

- マッチング実施回数： - (R2) → 3回/年 (R5)



イベントでの「有田みかん」PR

## 次世代へのシステム継承

担い手への農地集積及び公的機関を介した新規就農者への農地貸借

- 地域内新規就農者数：45人ha (R元) → 55人 (R5)

高温適応技術に係る試験研究の実施

- 研究課題 (R2～R4)：  
集中豪雨に対応した温州みかん主要病害の  
防除対策の確立
- 研究課題 (R3～R5)：  
極早生温州みかんの日焼け果対策

石積み研修会の開催、共同活動による石積  
みの保全

- 石積み研修会の開催回数：  
0回/年 (R4) → 1回/年 (R5)



石積み階段園

## 生物多様性と遺伝資源の保全

お話し講座による雑木林の役割周知と共同活動による雑木林の管理

- 中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金による共同活動の実施

- 共同活動実施協定数 (中山間)：  
109協定 (R1) → 107協定 (R5)
- 実施地区数 (多面的機能)：  
76地区 (R1) → 77地区 (R5)



環境保全型農業 現地研修会

環境保全型農業 現地研修会の開催による連携強化

- 有田地方環境保全型農業研究会 現地研修会： - (R2) → 1回 (R5)
- 近畿大学湯浅農場柑橘遺伝資源保存園における品種系統維持：142品種 (R5)